

2016年度国公立大学における大学入学者選抜の 個別学力試験に関する研究

—— 出題内容の形式分類・整理と和歌山大学の事例との比較を中心に ——

A Study of the Secondary Entrance Examinations Used by National and Public Universities in 2016 :

—— An investigation of the formats and contents used at Wakayama University ——

濱 田 彩

Aya HAMADA

(入試課アドミッションオフィス)

佐 藤 史 人

Fumito SATO

(アドミッションポリシー担当学長補佐)

山 田 純

Jun YAMADA

(入試課長)

池 際 博 行

Hiroyuki IKEGIWA

(教育学生支援入試担当理事)

2016年10月3日受理

Abstract

The Admissions Office of Wakayama University is studying the university admissions reform while making efforts to improve cooperation and public relations between high schools and the university about its entrance examination.

This study classifies and arranges the formats and contents of the secondary tests, which consist mainly of essay and comprehensive questions, used by national and public universities in their entrance examinations after the National Center Test in 2016. Its purpose is to understand their current state and utilize them for Wakayama University's admissions reform.

Our investigations lead us to the conclusion that essay and comprehensive questions are in actual fact very diverse and while widely used for university admissions, are of various types. They are similar to the cross-curriculum and overall type tests that many universities already use. Nevertheless, this study has provided concrete suggestions for Wakayama University's admissions reform.

1. 和歌山大学のアドミッションオフィス

(1) アドミッションオフィス設置経緯

和歌山大学は、2016年4月にアドミッションオフィスを設置した。構成員には、2015年2月に発足した入試企画・戦略室¹のメンバーに入試研究を専門とする教員1名、職員1名が増員された。国立大学で大学入学者選抜大学入試センター試験(以下、センター試験)や大学入試に関する各種統計データをとりまとめる組織は、1999年に東北大学や筑波大学が最初にアドミッションセンターを設置した²。以降、これらの大学や他大学における同様の組織は、入試に関わる研究内容を毎年開催される全国大学入学者選抜研究連絡協議会で報告している。早期にこのような組織を設置した大学と比較すると和歌山大学は遅れをとっているが、これまで在籍した教職員により入試広報は良好に機能していたといえる。2014年12月の中央教育審議会は、多元的

な評価に向けた意識改革と新たな評価手法の蓄積・共有のため、各大学におけるアドミッション・オフィスの強化や評価のための専門の人材の育成、教職員の評価力向上に対する支援を行うことが急務であると答申した³。また、文部科学大臣による2015年1月の高大接続改革実行プランは、この中央教育審議会答申を踏まえ、各大学におけるアドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・ポリシーの明確化や、個別選抜改革が速やかに実現されるよう財政措置を検討した⁴。これらを受け、和歌山大学においてもかねてより組織的・人的条件整備を進めていた⁵アドミッションオフィスの設置が実現した。

(2) アドミッションオフィスの役割

和歌山大学のアドミッションオフィスは、これまでの入試企画・戦略室の役割のうち、主に大学入試に関

する事項(広報・入学者の動向を含む)についての調査や研究に関すること、入学者選抜の制度、方法等の設計に関することを引き継ぐことになる。2020年度から大学入学希望者学力評価テスト(仮称)が、センター試験の廃止に伴い導入される予定である。このテストの内容はまだ明らかになっていないが、これまでの個々の教科・科目の知識・技能の範囲にとどまらず、複数の教科・科目の知識・技能等を教科横断的・総合的に組み合わせることが必要とされている。教科横断的な問題(合教科・科目型)や総合的な問題(総合型)を導入することは、高等学校における学習に関して、大学入学者選抜での出題教科・科目にとどまることなく、知識・技能を確実に担保するとともに知識・技能の活用力をも育むものとなることが期待される⁶。すでに各大学は個別学力試験で、合教科・科目型や総合型の問題を実施されている。和歌山大学のアドミッションオフィスの目的は、このような問題の出題校数や出題範囲について検討し、2020年度より全学部の全入試区分で本格的に総合問題及びAO入試、集団討論による選抜を達成すること、また通常の職務を兼務しながら入試広報に携わってきた教職員の負担を軽減することである。

2. 大学入学者選抜における個別学力試験

(1) 大学入学者選抜の概要

大学入学者選抜は、アドミッションズ・オフィス入試(以下、AO入試と表記)、推薦入試、一般入試、その他(社会人入試、帰国子女入試など)に区分される⁷。AO入試は、国立大学では2000年に東北大学工学部で初めて導入された⁸。AO入試の概要は、詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判断する入試方法である。AO入試による入学志願者の学力は、高等学校の教科の評定平均値や資格・検定試験等の成績により把握し、センター試験の受験を免除される場合がある。入学志願者の学修に対する意欲や目的意識は、面接やあるテーマに基づいたプレゼンテーション、集団討論を課すことによって判断される。AO入試は、入学志願者自らの意思で出願するが、推薦入試は出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法である。推薦入試は、AO入試同様に面接試験を課せられることが多く、高等学校の生活で学んだことや大学入学後に学びたいことをアピールできる場となる。さらに推薦入試は、スポーツや芸術、英語などある能力に優れた面を評価する場合や指定した高等学校や特定の地域に限られた場合などがある。国公立大学の一般入試は、原則、センター試験を受験後、前期日程試験(以下、前期日程と表記)、中期日程試験(以下、中期日程と表記)および後期日程試

験(以下、後期日程と表記)にて個別学力試験を出題される。2016年度の一般入試による入学者は、国立大学で84.6%、公立大学で73.2%、AO入試や推薦入試による入学者は、国立大学で14.8%、公立大学は35.8%となっており⁹、国公立大学のほとんどの入学者が、一般入試を経由していることがわかる。国公立大学は、未だ多くの大学で一般入試が中心である。入学志願者が提出した調査書を読み込んだり、一人ずつ面接を行ったり、時間をかけた人物評価を行うには時間・人材・金銭面に限りがあるため、紙面による試験で済ませているのが現状である。しかし、2014年の中央教育審議会高大接続特別部会は、一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、大学入学者選抜全体において、多面的・総合的に評価する総合型選抜へ抜本的に改革する¹⁰としている。2015年国立大学協会は、推薦入試、AO入試や国際バカロレア入試等による入学定員を30%に拡大することを目指している¹¹。国立大学はこれまでのAO入試や推薦入試を、例えば大阪大学の世界適塾入試やお茶の水女子大学の新フンボルト入試など、名称や内容を変更し大学入学者選抜の改革を進めている。

(2) 和歌山大学の大学入学者選抜

和歌山大学の2016年度大学入学者選抜¹²は、国公立大学で通常実施されるAO入試、推薦入試、一般入試の3区分すべてを採用している。ただし、推薦入試、一般入試は和歌山大学の4学部すべてにおいて採用しているが、AO入試は2007年に設置された観光学部の1学部のみで採用している。観光学部では学部設置年度と同時にAO入試も採用し¹³、入学志願者にはセンター試験を免除し、面接とプレゼンテーションを課している。推薦入試は、すべての学部で実施しているが、センター試験を課す場合と課さない場合がある。教育学部の推薦入試における一般推薦とシステム工学部の一般推薦は、ともにセンター試験を課し、面接や自己推薦書などの提出を求めている。教育学部の推薦入試における地域(紀南)推薦、経済学部と観光学部の一般推薦、経済学部のスポーツ推薦は、それぞれセンター試験を免除し、面接や小論文、集団討論などを課している¹⁴。

上記以外の和歌山大学における各学部の一般入試は、センター試験後、個別学力試験の前期日程で、希望の学部入学後に必要な知識に基づいた科目を出題している。例えば教育学部文科系の試験では、国語科、社会科学、英語科から2教科の選択解答、教育学部理科系の試験では、数学科、理科の教科内容からの出題となっている¹⁵。後期日程では、教育学部、経済学部、観光学部は小論文を、システム工学部は総合問題を出題している。

表1には、和歌山大学4学部の、2016年度入学者選抜別の比率を示した。これをみると入学者は教育学部

が58.0%、経済学部が63.6%、システム工学部が57.6%、観光学部が42.9%、全学部では57.7%が前期日程を経ていることがわかる。また後期日程の入学者は、教育学部が24.4%、経済学部が25.6%、システム工学部が28.5%、観光学部が25.4%、全体では26.3%となる。一般推薦による入学者は全学部では14.9%であるが、観光学部が27.0%となっており、教育学部が17.6%、経済学部が9.5%、システム工学部が13.9%と比較すると、高い比率になっている。また観光学部のみAO入試を実施している。観光学部の中ではAO入試の比率は3.2%、全学部の比率からみると0.4%となり、AO入試を経る入学者はわずかである。募集定員が少ないことも影響し、後期日程、推薦入試やAO入試を受験する入学者の比率が低い。和歌山大学は、当面、推薦入試やAO入試の募集定員をこれ以上拡大する予定はなく、前期日程と後期日程の個別学力試験を重視する方向である。

3. 国公立大学の学部系統別一般入試の検討

(1)国公立大学の学部系統数

2016年度大学入学者選抜を実施した国立大学は82大学387学部、公立大学は82大学176学部ある¹⁶。文部科学省の区分によると、学部系統を人文・社会系、理工系、農・水産系、医・歯系、薬・看護系、教員養成系、その他に分けることができる。和歌山大学の学部は、教育学部が教員養成系の学部、経済学部と観光学部が人文・社会系の学部、システム工学部が理工系の学部に区分される。

表2には、国立大学、公立大学にある上記の学部系統数を示した。これをみると国立大学は理工系が104学部(26.9%)と最も多く、次いで人文・社会系が102学部(26.4%)、医・歯系が53学部(13.7%)、教員養成系が45学部(11.6%)と続く。公立大学は人文・社会系が55学部(31.3%)と最も多く、次に薬・看護系が48学部(27.3%)、理工系が22学部(12.5%)となっている。

(2)一般入試の小論文と総合問題出題比率

2016年度一般入試で小論文を出題している大学は、国立65大学178学部、公立62大学95学部、総合問題を出題している大学は国立24大学40学部、公立15大学18学部とされる¹⁷。国公立大学すべての2016年度一般入試で出題された個別学力試験問題を入手することは困難であった。よってここでは、大手予備校の小論文・総合問題出題方針一覧¹⁸を参照し、以下の要領で国公立大学学部系統別に個別学力試験の前期日程および後期日程で出題された問題を、教科別問題等、小論文、総合問題に分類した。中期日程は、国立大学で実施されていないため省略した。

- ・小論文・総合問題出題方針一覧に記載されていない学部・学科からは、教科別問題、面接、リスニングなどが課せられたとみなし、教科別問題等とする
- ・教科別問題は、「国語」「数学」「英語」など受験教科が明記された問題を指す
- ・論述試験、論文は、小論文の分類にする
- ・問題解決・提案力テスト、批判的・論理的思考力テスト、総合テストは、総合問題に分類する
- ・小論文と総合問題の両方を同じ日程、同じ学部で出題している場合、小論文、総合問題それぞれカウントする
- ・国立大学と公立大学の学部系統をまとめて図にする

図1と図2には、2016年度に国公立大学の一般入試で出題されている教科別問題等、小論文、総合問題の比率を前期日程と後期日程に分けて示した。これによると、国公立大学の前期日程で教科別問題等を出題している学部は、理工系が最も高く97.6%、次いで農・水産系が91.5%、人文・社会系が87.9%、医・歯系が77.4%、薬・看護系が71.7%、教員養成系が65.2%となっている。国公立大学の前期日程で小論文と総合問題を出題している学部は、それぞれの学部系統でわずかなのであるが、教員養成系は小論文が28.3%、総合問題が6.5%であり、他の学部系統と比較すると前期日程で

表1 2016年度和歌山大学入学者選抜別入学者比率 (%)

学部 選抜方法	教育学部	経済学部	システム 工学部	観光学部	全学部	N
前期日程	58.0	63.6	57.6	42.9	57.7	535
後期日程	24.4	25.6	28.5	25.4	26.3	244
一般推薦	17.6	9.5	13.9	27.0	14.9	138
スポーツ推薦	—	1.3	—	—	0.4	4
帰国子女推薦	—	—	—	—	0.0	0
社会人推薦	—	—	—	1.6	0.2	2
AO入試	—	—	—	3.2	0.4	4

※注 教育学部の一般推薦は、一般推薦枠と地域(紀南)推薦枠を設けているが、ここでは両方の枠を一般推薦で表記する

表2 2016年度の国公立大学の学部系統数

学部系統	国立大学 学部数	公立大学 学部数	国公立大学 学部数
人文・社会	102	55	157
理工	104	22	126
農・水産	39	8	47
医・歯	53	9	62
薬・看護	15	48	63
教員養成	45	0	45
その他	29	34	63
合計	387	176	563

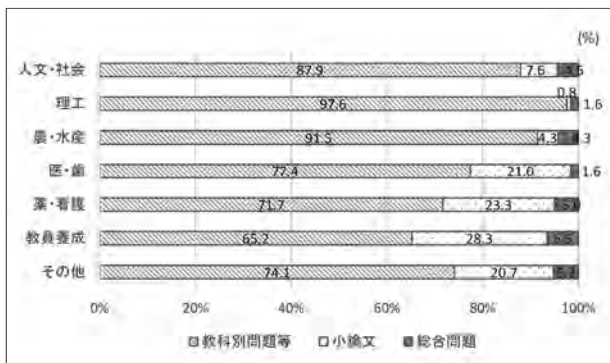


図1 国公立大学の個別学力試験前期日程の出題比率

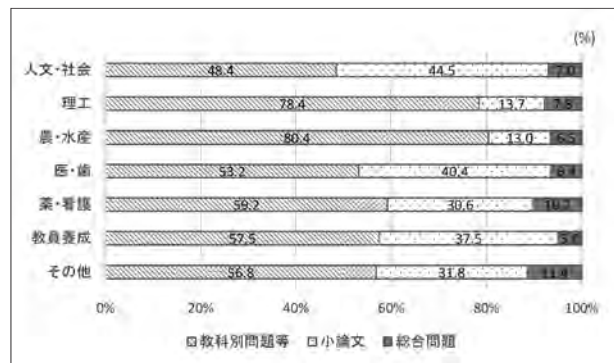


図2 国公立大学の個別学力試験後期日程の出題比率

出題される小論文や総合問題の比率が高い。理工系の小論文の出題比率は0.8%と低く、総合問題の出題比率も1.6%と低い。前期日程と比較し、国公立大学の後期日程で小論文は、人文・社会系が44.5%、医・歯系が40.4%、教員養成系が37.5%、薬・看護系が30.6%と多くの学部は前期日程より出題比率が高い。理工系の学部は、後期日程で小論文が13.7%、総合問題が7.8%、農・水産系の学部は小論文が13.0%、総合問題が6.5%となっており、前期日程より比率が高くなっているが、他学部と比較すると小論文と総合問題の出題比率は低い。

(3) 小論文と総合問題の出題形式

小論文は、あるテーマに対する回答者の考えが問われ、総合問題は、自由な考えではなく正解のある問題への解答が求められるとしている¹⁹。このように大学は、出題形式として小論文と総合問題を区別しているが、大手予備校はこれらをより多くの出題形式に分類している²⁰。この分類によると、「課題文読解型問題」、「図表分析型問題」、「テーマ型問題」、「英文問題」、「理科論述型問題」、「図版問題」、「教科論述型問題」、「その他」の8つの形式に分類される。具体的に記載すると、課題文読解型問題は与えられた資料のうちの主たるものが日本語の課題文であり、さらに一定の主題について見解を述べることだけが求められる問題を「課題文読解型問題Ⅰ」と、要約・説明を求める設問が含まれている問題を「課題文読解型問題Ⅱ」に分けている。「図表分析型問題」は、与えられた資料のうちの主たるものが図表であり、その読み取りや、それに基づいて見解を述べることが求められている。「テーマ型問題」は、原則として資料がなく、与えられたテーマに対して見解や感想を述べる必要がある。「英文問題」は、与えられた資料の主たるものが英文であり、解答作成に際して英文読解力が必要不可欠となる問題である。「理科論述型問題」は、解答作成に際して理科や数学の教科知識が必要だが、それだけでは十分ではなく、理科系的な分析能力や発想力なども要求される。「図版問題」は、与えられた資料の主たるものが図版

であり、その解釈、鑑賞などを求められる。「教科論述型問題」は、教科の知識のみで解答可能であり、解答が一義的に定まる。「その他」は、与えられた資料がVTRや音楽や事前に指示した課題図書などの特殊資料である問題、および小論文・総合問題・表現力テストなどの名称で課せられている試験であっても文章での解答が求められていない芸術、体育、家庭科の実技試験など、他の出題形式に分類されない特殊な問題とされる。

(4) 学部系統別出題形式比率

ここでは、2016年度の大学入学者選抜で出題された問題を3(3)の出題形式に従い、以下の要領で学部系統別に分類した。

- ・小論文と総合問題の区別をせずに分類する
- ・出題された問題数ではなく、出題形式数の比率を学部系統別に示す

例えば、ある大学の教育学部で2問出題されていても、同じ形式であれば1とカウントする

1) 前期日程と後期日程の比較

表3の国公立大学の前期日程では、小論文と総合問題としては、「課題文読解型問題Ⅱ」が39.4%、「課題文読解型問題Ⅰ」が18.9%、「図表分析型問題」が12.8%、「テーマ型問題」が8.8%、「教科論述型問題」が7.7%、「英文問題」が6.4%の順に出題比率が高い。表4の後期日程では、「課題文読解型問題Ⅱ」が36.0%、「英文問題」が14.5%、「課題文読解型問題Ⅰ」が14.0%、「テーマ型問題」が9.5%、「図表分析型問題」が8.8%、「理科論述型問題」が7.8%という順に出題比率が高い。どちらの日程も「課題文読解型問題Ⅱ」の出題比率は高いこと、また「英文問題」は、他の形式と比較すると、後期日程で出題比率が高くなっている。「テーマ型問題」は、「課題文読解型問題」や「図表分析型問題」と比較すると出題しやすい形式であると考えていたが、実際には前期日程でも後期日程でも、それほど多く出題されていない。

表3 国公立大学における前期日程の学部系統別出題形式比率 (%)

学部系統 出題パターン	全学部	人文・社会	理工	農・水産	医・歯	薬・看護	教員養成	その他	N
課題文読解型問題Ⅰ	18.9	13.0	0.0	9.1	16.2	20.6	25.8	13.5	56
課題文読解型問題Ⅱ	39.4	56.5	0.0	18.2	45.9	64.7	29.2	40.5	117
図表分析型問題	12.8	6.5	0.0	0.0	13.5	8.8	18.3	13.5	38
テーマ型問題	8.8	6.5	8.3	0.0	5.4	0.0	11.7	16.2	26
英文問題	6.4	10.9	16.7	0.0	10.8	5.9	3.3	5.4	19
理科論述型問題	3.7	0.0	41.7	9.1	2.7	0.0	2.5	2.7	11
図版問題	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	6
教科論述型問題	7.7	6.5	33.3	63.6	5.4	0.0	3.3	8.1	23
その他	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	1

表4 国公立大学における後期日程学部系統別出題形式比率 (%)

学部系統 出題パターン	全学部	人文・社会	理工	農・水産	医・歯	薬・看護	教員養成	その他	N
課題文読解型問題Ⅰ	14.0	15.3	1.7	12.0	8.1	14.3	28.0	12.0	59
課題文読解型問題Ⅱ	36.0	52.4	13.8	32.0	38.7	39.3	25.3	34.0	152
図表分析型問題	8.8	8.1	5.2	8.0	6.5	3.6	12.0	16.0	37
テーマ型問題	9.5	4.0	10.3	4.0	4.8	14.3	18.7	14.0	40
英文問題	14.5	18.5	10.3	12.0	30.6	17.9	1.3	8.0	61
理科論述型問題	7.8	0.0	29.3	24.0	8.1	7.1	2.7	2.0	33
図版問題	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	2.0	5
教科論述型問題	7.3	1.6	29.3	8.0	3.2	3.6	5.3	6.0	31
その他	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	6.0	4

2) 学部系統別の比較

表3と表4を学部系統別にみると、前期日程では人文・社会系が56.5%、医・歯系が45.9%、薬・看護系が64.7%、教員養成系が29.2%、その他の学部が40.5%となり、「課題文読解型問題Ⅱ」が他の形式と比較して高い出題比率となっている。後期日程でも人文・社会系が52.4%、農・水産系が32.0%、医・歯系が38.7%、薬・看護系が39.3%、その他が34.0%となっており、「課題文読解型問題Ⅱ」の出題率が高い。一方、理工系の学部で出題比率が高いのは「理科論述型問題」の41.7%で、農・水産系の学部で出題比率が高いのは、「教科論述型問題」の63.6%である。理工系の学部は、前期日程で出題比率が高かった「理科論述型問題」、「教科論述型問題」の出題比率が後期日程でも高い。また、理工系の学部は、前期日程では「課題文読解型問題Ⅰ」、「課題文読解型問題Ⅱ」、「図表分析型問題」は出題されていないけれども、「英文問題」はわずかではあるが16.7%出題されている。

医・歯系の学部は、「英文問題」の出題比率が前期日程では10.8%であるが、後期日程では30.6%になっており、他の学部系統と比較すると高い出題比率となっている。

教員養成系の学部は前期日程でも後期日程でも「課

題文読解型問題Ⅰ」と「課題文読解型問題Ⅱ」、「図表分析型問題」の出題比率が高い。教育学部には理科系の科目があるため、「理科論述型問題」と「教科論述型問題」が、わずかではあるが出題されている。「図版問題」は与えられたモチーフを鉛筆写生する問題などであり、前期日程では教員養成系学部で5.0%、後期日程では教員養成系学部で5.3%、その他の学部で2.0%となり出題比率が低い。「その他」の形式は、音楽や美術、体育など実技試験を実施される教員養成系の学部で出題され、前期日程0.8%、後期日程1.3%となり、こちらも出題比率が低い。またここでは把握していない以上に、実技試験が課されている場合も考えられる。

4. 和歌山大学と他大学の出題形式比較検討

国公立大学の中で和歌山大学と同系統のある学部は、2016年度の大学入学者選抜²¹でどのような問題を出題しているか比較する。

(1) 教育学部

和歌山大学教育学部の学校教育教員養成課程は、大学入学者選抜では文科系、理科系、実技系で一般入試の個別学力試験を実施している。小論文を出題しているのは、文科系と理科系の後期日程で、文科系で出題

している小論文は、「課題文読解型問題Ⅱ」に分類されている。理科系で出題している小論文は、「課題文読解型問題Ⅰ」と「図表分析型問題」に分類されている。文科系で出題している内容と比較すると、理科系で出題している問題は、理科や数学に関する内容が多い。岡山大学教育学部は、学校教員養成課程と養護教諭養成課程があり、個別学力試験は前期日程のみである。養護教諭養成課程より出題されている小論文²²は「課題文読解型問題Ⅱ」に分類され、和歌山大学教育学部の文科系で出題している形式に類似している。愛知教育大学教育学部は、初等教育、中等教育、特別支援学校の教員養成課程と、養護教諭養成課程、教育支援専門職養成課程がある。和歌山大学と同じ形式で出題しているのは、特別支援学校教員養成課程で出題している後期日程の小論文である²³。この小論文の課題文は少ないけれども、出題形式は和歌山大学と類似している。初等教育や中等教育の教員養成課程の教育科学や家庭科、技術科は前期日程で総合問題を出題し、後期日程では国語科や社会科が総合問題を出題している。出題形式は、「課題文読解型問題Ⅰ」、「図表分析型問題」、「教科論述型問題」など科目によって異なる。愛知教育大学や奈良教育大学のような単科大学は、和歌山大学のように文科系や理科系の共通問題ではなく、国語科や社会科など受験科目により形式の異なる小論文や総合問題を出題している点が和歌山大学とは異なっている。

(2)経済学部

和歌山大学経済学部の後期日程で出題している小論文は、「課題文読解型問題Ⅱ」に分類されている。新潟大学経済学部の後期日程で出題している総合問題²⁴は、「課題文読解型問題Ⅱ」に分類されており、出題形式を見ると和歌山大学と同様の出題意図が汲み取れる。広島大学経済学部でも同じ形式で出題している²⁵が、読解、書き取り、複数の課題文から共通点と相違点の引用・要約、意見論述など問題の分量は多い。和歌山大学とは異なる形式で出題している千葉大学法政経済学部の後期日程では、「英文問題」に分類されている総合テスト²⁶を出題している。

(3)システム工学部

和歌山大学システム工学部の総合問題は、入学者選抜要項によるとシステム工学を学ぶにふさわしい能力・適正等を判断する記述解答問題で、形式は「教科論述型問題」に分類されている。富山大学工学部の総合問題も「教科論述型問題」に分類されており²⁷、和歌山大学の出題形式に類似している。長崎大学工学部の後期日程で出題している総合問題²⁸は、「理科論述型問題」に分類されているが、数学と理科の知識を問う問題が多く、実際は和歌山大学の出題形式と類似してい

る。名古屋工業大学は、前期日程と後期日程で生物やコンピューターに関する「テーマ型問題」の小論文を出題しており²⁹、和歌山大学とは出題形式が異なる。

(4)観光学部

和歌山大学観光学部の後期日程で出題している小論文は「課題文読解型問題Ⅱ」に分類されている。国立大学の中では琉球大学の環境産業科学部が、和歌山大学の観光学部に相当すると考えられるが、後期日程で出題されている小論文は和歌山大学と出題形式が異なる。琉球大学で出題している小論文³⁰は、「テーマ型問題」に分類されており、観光に関する内容を1000字から1200字以内で述べるという問題である。

5. 結論

2016年度国公立大学入学者選抜の個別学力試験について、出題内容や形式等に関して整理・分類を行った。その結果は以下の通りである。

小論文と総合問題の区分にはこれまでの先行研究で指摘されていたように、出題者が求める解答には質的相違がみられ、これに着目した区分であった。本研究で明らかになったことは、こうした先行研究による区分にとどまらなかった。小論文と総合問題の出題内容を検討した結果では、一方で出題者の求める解答に同様の意図や趣旨がほとんど変わらない場合が認められ、他方で小論文や総合問題の区分とは無関係に形式も内容も出題範囲も多様である場合が認められる。すなわち、小論文と総合問題という区分は、実態として多様であり定義があいまいなまま広く国公立大学では採用、実施されていることがわかった。

また、総合問題と称する問題には、①その問題構成が複数教科からなるいわば全科問題、②読解力や論述力など総合的な能力をはかる問題などのように多様で、普遍的・共通的な意図や趣旨を見出すことはできない。小論文と総合問題の区分があいまいであったことと同様に、総合問題そのものについても定義ができない状況である。その反面、小論文や総合問題でありながら、文科系と理科系それぞれの問題を用意する大学が少なくないこともわかった。このことを換言すれば、教科別問題でも、小論文や総合問題でも、各大学で学部や学科の内容に即した問題、入学志願者が持っている考えや能力を問う問題と志望動機や学習意欲をはかる問題等は、それぞれの大学学部が企図する多様な大学入学者選抜をすでに採用、実施しているともいえる。今後予定される全国的な国公立大学の入試改革における大学入学者選抜の在り方として注目される小論文や総合問題は、出題している大学は現在のところまだ半数程度であるけれども、中央教育審議会の高大接続特別部会が推奨する教科横断的な問題や総合的な問題に近く、和歌山大学における入試改革の具体的な取り組み

に示唆が得られる。

おわりに

2016年10月には文部科学省から2020年度に実施される大学入学学力評価テスト(仮称)に関して報道がなされた。その内容は現行のセンター試験はマークシートによる選択式であるが、思考力を重視し、国語と数学の一部で記述式問題が導入されるというものである。英語は、現行の試験で行われてきたマークシートによる選択式と、リスニングの2技能(読む・聞く)を新テストでは、4技能(話す・書く・聞く・読む)を総合的にはかるため、文部科学省は当面、センター試験と英検など民間の試験の結果を組み合わせで評価し、最終的には民間試験に一本化する方針を示した³¹。しかし、記述式の採点は受験生の志願する各大学が行うことを前提にしており、その人員に関する手立ては明確にされていない。少なくとも和歌山大学における大学入学者選抜は、現行の人員では限界に達しており、これ以上の負担は無理があると考えられる。大学入学学力評価テスト(仮称)にて記述問題を導入し、多面的・多元的に入学志願者を評価できるのであれば、大学の一般入試で前期日程、後期日程に限らず、小論文や総合問題を採用する必要性は低くなる。それでもこれらの出題形式が必要であるならば、限られた人員の中で、効率的に作業ができる環境、かつ入学志願者の個別学力を適正に評価できる方法も今後検討しなければならない。

注・参考文献

- 1 佐藤史人・門脇弘和・池際博行「大学入試制度期における和歌山大学の課題に関する研究」『和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要No.25』2015年
- 2 2014年9月17日中央教育審議会高大接続特別部会「新たな大学入学者選抜への転換～点からプロセスへ～」配布資料1-1 p.10 アドミッションセンター、アドミッション・オフィスなど大学によって、同様の組織名が異なる
- 3 2014年12月22日中央教育審議会答申「新たな時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」p.14
- 4 2015年1月16日文部科学大臣「高大接続改革実行プラン」p.4
- 5 佐藤史人・門脇弘和・池際博行「最近の大学入試制度の改革に関する研究」『和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 第65集』2014年
- 6 2014年6月20日中央教育審議会高大接続特別部会(第16回)配布資料
- 7 文部科学省「平成28年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会」p.22
- 8 木村拓也・倉元直樹「戦後大学入学者選抜制度の変遷と東北大学のAO入試」『東北大学高等教育開発推進センター紀要(1)、15-27』2006年
- 9 前掲8、p.23
- 10 前掲2、p.2
- 11 一般社団法人国立大学法人「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」2015年
- 12 2016年度入学者のための選抜入試を2016年度入学者選抜入試と表記される
- 13 佐藤史人・門脇弘和・池際博行「最近の大学入試制度の改革に関する研究」『和歌山大学教育学部紀要 教育科学第65集』2015年
- 14 2016年度和歌山大学選抜要項
- 15 前掲14、美術や技術、音楽など実技試験を課される場合もある。
- 16 平成28年度国公立大学入学者選抜確定志願状況
- 17 前掲7、p.32
- 18 Kei-Net 小論文・総合問題出題方針一覧http://www.keinet.ne.jp/taisaku/shoron/16k_houshin.pdf
- 19 今在慶一郎「総合問題の性質と選抜機能－北海道教育大学函館校2ヵ年の事例－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)第59巻第1号』2008年
- 20 Kei-Net 小論文・総合問題実施状況一覧<http://www.keinet.ne.jp/taisaku/shoron/shutsudai.pdf>
- 21 過去問題集では2016年度一般入試状況とされているが、本研究では出題された年度で統一する
- 22 2017年版大学入試シリーズNo.124「岡山大学(文系)」教学社 2016年
- 23 2017年版大学入試シリーズNo.87「愛知教育大学」教学社 2016年
- 24 2017年版大学入試シリーズNo.61「新潟大学(人文学部・教育学部〈文系〉・法学部・経済学部・医学部〈保健学科看護学専攻〉)」教学社 2016年
- 25 2017年版大学入試シリーズNo.127「広島大学(文系)」教学社 2016年
- 26 2017年版大学入試シリーズNo.40「千葉大学(文系－後期日程)」教学社 2016年
- 27 2017年版大学入試シリーズNo.64「富山大学(理系)」教学社 2016年
- 28 2017年版大学入試シリーズNo.151「長崎大学」教学社 2016年
- 29 2017年版大学入試シリーズNo.88「名古屋工業大学」教学社 2016年
- 30 2017年版大学入試シリーズNo.162「琉球大学」教学社 2016年
- 31 2016年10月18日毎日新聞